

まっ、いいか。の

軽い気持ちに困っています

私たちが出す「燃やすごみ（可燃ごみ）」が、まるで山のようになっている古賀清掃工場。古賀市と新宮町の可燃ごみといっしょに工場内の焼却施設で燃やしていますが、困った問題が起きています。恐らく軽い気持ちで可燃ごみに混ぜたと思われる金属が、焼却施設を停止させたのです。そこで今月は、福津市、古賀市、新宮町の2市1町でごみの分別の合同特集を組みました。

焼却施設が緊急停止する事態

「分ければ資源」「ごみ減量」を合言葉にして、全国の市や町で分別収集が始まったのは20年前の平成9年。俗にいう容器包装リサイクル法の施行からです。

当初は何をどう分ければいいのかと戸惑い、不安だった分別ですが、今では各地域、各家庭にしっかりと根付き、定着してきました。各家庭から出る市指定ごみ袋に入っているごみの中身は、可燃ごみだけになっているはず、でした。しかし残念なことに、分

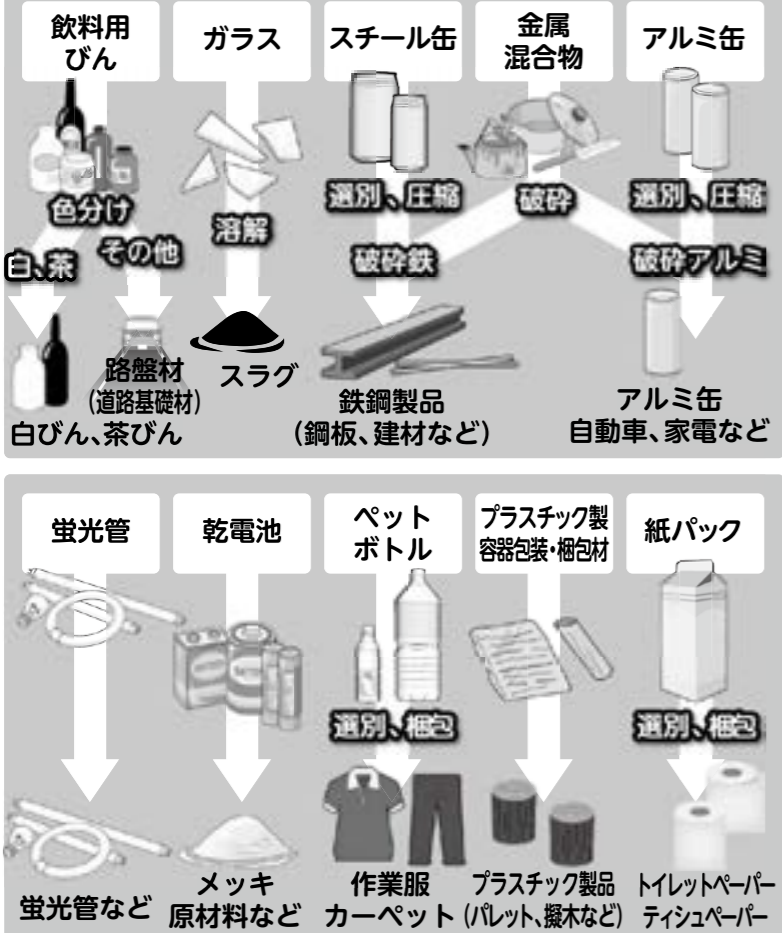
別の取り組みはまだまだと言わざるを得ないことが、工場できていたのです。

可燃ごみを燃やす焼却施設が緊急停止したのは、昨年11月末。可燃ごみだけになっているはずのごみ袋の中に、金属が混入していたことが理由です。

本来なら金属は、金属混合物として分別収集されているはず。停止した焼却施設から不具合を引き起こした金属を取り除けば、すぐに稼働するというわけではありませぬ。部品を交換したり、全体の点検作業などをしたりと、対応に経費と時間がかかりました。結局、焼却施設は約1週間停止しました。その間、可燃ごみは工場の中に溜まったままの状態となりました。しかも、今回だけでなく過去にも同様のことが起きているのです。

「まっ、いいか。これぐらいいだし」と軽い気持ちで金属を可燃ごみに入れたのかもしれない。しかし、工場は大変な事態になります。皆さん一人一人の分別意識が今、問われています。

分別ごみの行方



古賀市に住む人に聞く
ダンボールコンポストで
処理しています



▲蓮尾隆さん 日吉台区

新宮町に住む人に聞く
雑紙の回収に
取り組んでいます



▲梅崎由美子さん 夜白2区

紙袋をごみ箱代わりにしてチラシなどの雑紙（4ページに連続記事）を入れると、そのまま古紙回収に出すことができます。手間入らずで気軽に取り組めますよ。

ごみ減量の工夫

古賀市、新宮町、福津市の人に、ごみ減量のためにどのような工夫をしているか聞いてみました。



2市1町合同企画 特集：ごみの分別

初心にかえて分別を

最近、ごみの分別状態が良くありません。可燃ごみでは、特に工場の設備に影響を及ぼすものが金属類。本来、金物として分別するはずの物が、可燃ごみに混入しているのです。この問題は家庭だけでなく事業所も同じ状況です。事業所の可燃ごみにも大きな金属類が混入していることがあり、運転が一時停止したり、機械が破損したりする原因となっています。

再資源化のために行っている分別収集では、逆に可燃ごみの混入が多く資源化の支障になっています。特に間違いが多いのはプラスチック製容器包装、つまり「プラ」マークのついたプラスチック製品です。問題は、「プラ」マークのない物や汚れた物が混入していると再資源化の妨げになり、他の資源化できるものまで可燃ごみとして処理しなければなることです。また、スプレー缶も間違いが多く見受けられます。今年度からスプレー缶という品目で回収になっているのですが、いまだに金属混合物といっしょに収集されていることがあります。穴を空けずにスプレー缶という品目で分別してください。

市民と事業所と行政が、それぞれの立場でごみの出し方について意識し、行動していくことが重要なのです。



古賀清掃工場
吉永誠場長



▲リサイクルできるプラスチック類がたくさん混入されています



▲リサイクルできる雑紙もたくさん混入されていました



ました。ペットボトルや食品用トレイが入っていました。また、プラスチック容器包装（プラマークのついたもの）もたくさん入っていました。これらはリサイクルできますが、汚れたものやプラマークのないものは可燃ごみです。分別すれば資源となるものが、分別されずごみとなっています。

菓子の空き箱などです。その多くが可燃ごみの袋に入れられ、捨てられています。もちろん紙の中でも再資源化できないものもあります。例としては、匂いのついた紙や、紙コップなどの防水加工紙、レシートなどの感熱紙などです。これらは、可燃ごみです。分別できる紙を除くと、かなり袋は小さくなりました。

スチック製であり、一部分だけが金属になっているものが多いです。例えば、ハンガー、ライター、はさみ、バインダーなどです。焼却炉の故障の原因になる金属類は絶対に可燃ごみの袋に入れないように注意しましょう。金属との混合物であれば金属混合物として出す必要があります。

▲しっかり分別すれば市指定ごみ袋のサイズも大から小になり、家計も助かります。ぜひ皆さんも家庭でごみ袋ダイエットを始めてみませんか。

清水さんによると、可燃ごみとして工場に持ち込まれるごみ袋容積の内、約5割がプラスチック類で占められているそうです。そこで実際に持ち込まれているごみ袋を一つ選び、分別を始めます。開けてびっくり。本来なら分別されていて、可燃ごみの袋には入ってはいけないうものがたくさん出てきます。まずはプラスチック類を除き



▲可燃ごみの大きな袋を持つ清水さん

プラスチック類を除く



▲プラスチック類を除いたことで小さくなったごみ袋

雑紙を除く



▲雑紙を除いたことで、さらに小さくなったごみ袋

金属類を除く

皆さんは可燃ごみの袋に、リサイクルできるものを入れていませんか。きちんと分別すれば資源になりますし、燃えるごみの減量にもつながります。そこで古賀清掃工場再生・展示棟で働いている認定NPO法人エコけんの清水佳香さんに、「ごみ袋の減量のコツを教えてくださいました。」

ごみ袋ダイエットに挑戦



2市1町合同企画 特集：ごみの分別

福津市に住む人に聞く
家の庭を有効活用しています

野菜の皮やお茶がらは、家の庭に埋めています。動物に荒らされないよう、ちよつと深めに掘るのがコツです。後は土が勝手に分解してくれるので簡単ですよ。



大塚二美子さん 緑町区

電気式生ごみ処理機で減らしています

市の補助金を活用し、電気式生ごみ処理機を買いました。処理機で肥料をつくり、溜まった庭の花壇にまいています。ごみ袋には生ごみをほとんど入れていません。



中山和恵さん 宮司3区

できるだけ長く使うことを心がけています

例えば古くて錆だらけの傘立てでも、使えるうちは捨てません。スプレーできれいに塗装しリペアしています。修繕できるものは修繕し、ごみを出さないようにしています。



丸尾哲郎さん 光陽台1区